

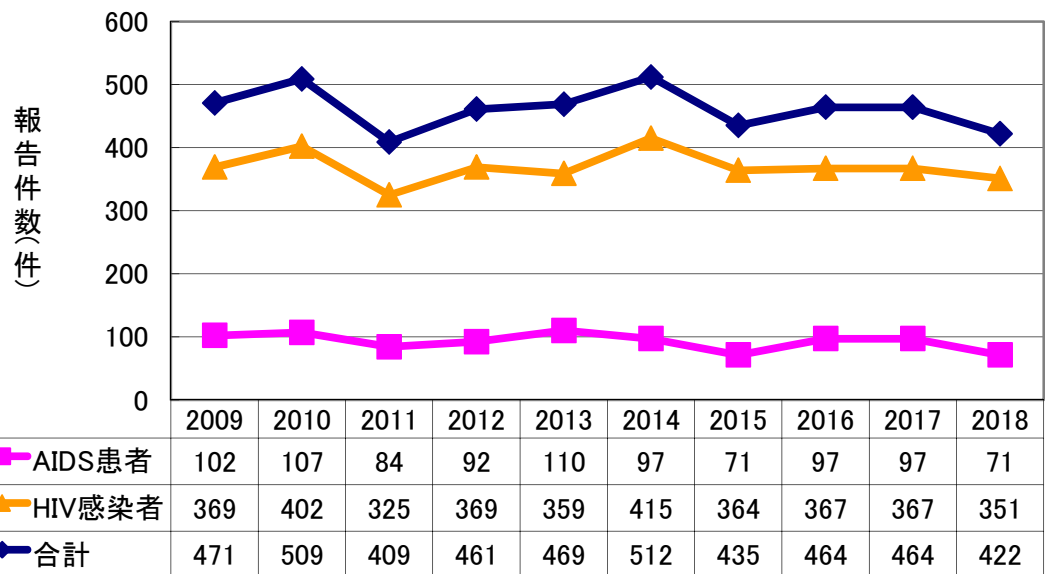
# 2018年 東京都のHIV感染者・AIDS患者の動向及び 検査・相談事業の実績

## 2018年のトピックス

- HIV感染者及びAIDS患者を合わせた届出報告数は422件、HIV感染者は351件、AIDS患者は71件で、ともに前年と比べ減少した（図-1）。  
 (1) 外国籍男性は、前年から21件減少したものの、過去3番目に高い報告数となった（図-2）。  
 (2) 推定感染経路では、性的接触によるものが87.9%、男性同性間性的接触によるものが74.4%であった（図-3）。  
 (3) 年代別の割合は、HIV感染者は20～30歳代が67.8%、AIDS患者は30～40歳代が59.2%であった（図-4）。
- 保健所等でのHIV/AIDSに関する電話相談件数は23,056件で、前年から約23%増加した。HIV検査件数は29,576件で、前年から約10%増加した（図-5、6）。
- HIVの感染リスクを高めると言われている性感染症の「梅毒」は、患者報告数が1,775件で、前年より13件減少したものの、感染症法に基づく調査が始まった1999年以降で2番目に高い報告数となった（図-9）。  
 男女共に異性間性的接触による報告数が多い傾向が近年続いており、2018年は女性の異性間性的接触による患者報告数が、男性の異性間性的接触による患者報告数を上回った（図-10）。  
 男性は20～40歳代に多く、女性は20歳代で急増している（図-11）。

### 1 HIV感染者及びAIDS患者の発生動向

図-1  
HIV感染者及び  
AIDS患者の  
報告数の推移  
(過去10年)



ひとくち  
×E

HIV感染者：  
HIV(ヒト免疫不全ウイルス)に感染しているが、AIDSを発症していない状態。

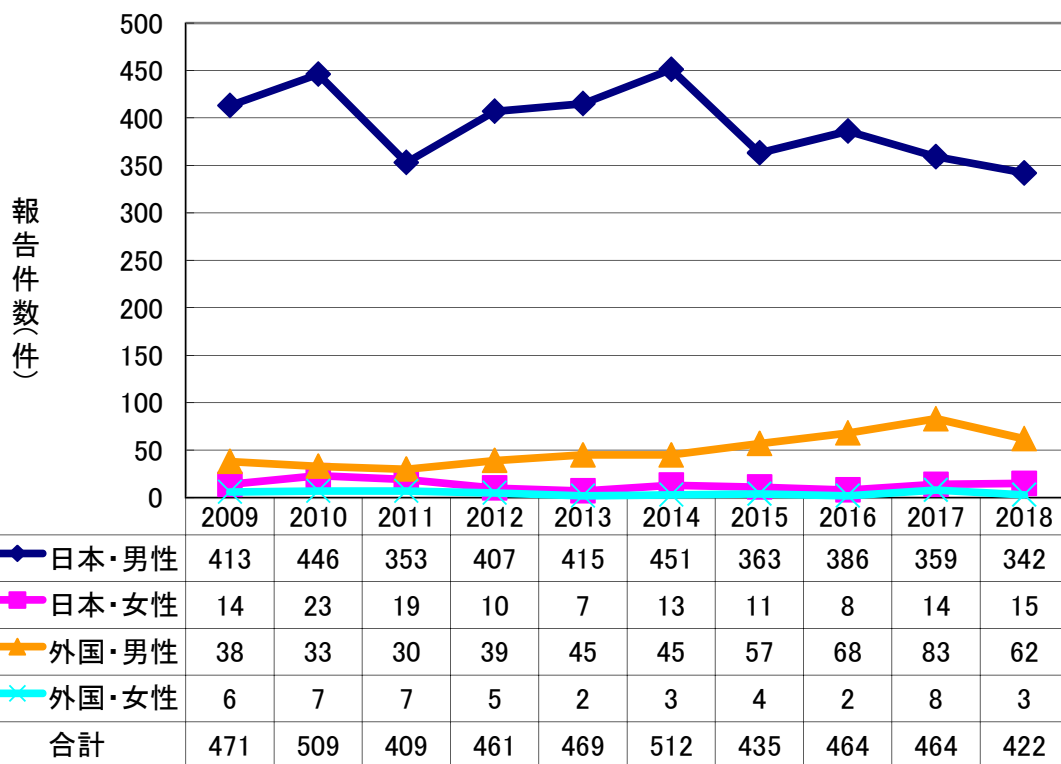
HIV感染者は、前年と比べて16件減少した。  
AIDS患者は、前年と比べて26件減少した。

本報告は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づいて、2018年に報告されたHIV感染者とAIDS患者の統計及び区・都の保健所等における相談・検査業務の実績をまとめ、分析したものである。  
 なお、HIV感染者・AIDS患者の報告数、相談件数、検査件数については、過去のデータを見直し、更新されている。  
 また、図表中では、東京都南新宿検査・相談室を南新宿、東京都多摩地域検査・相談室を多摩地域と記載している。

図-2  
HIV感染者及び  
AIDS患者合計の  
国籍・性別報告数  
の推移  
(過去10年)

ひとくち  
メモ

AIDS患者：  
HIV感染により免疫  
力が低下し日和見  
感染症や悪性腫瘍  
等(23指標疾患)  
が認められた状  
態。  
HIV感染後未治療  
の場合、数年～10  
数年でAIDS発症す  
ると言われている。

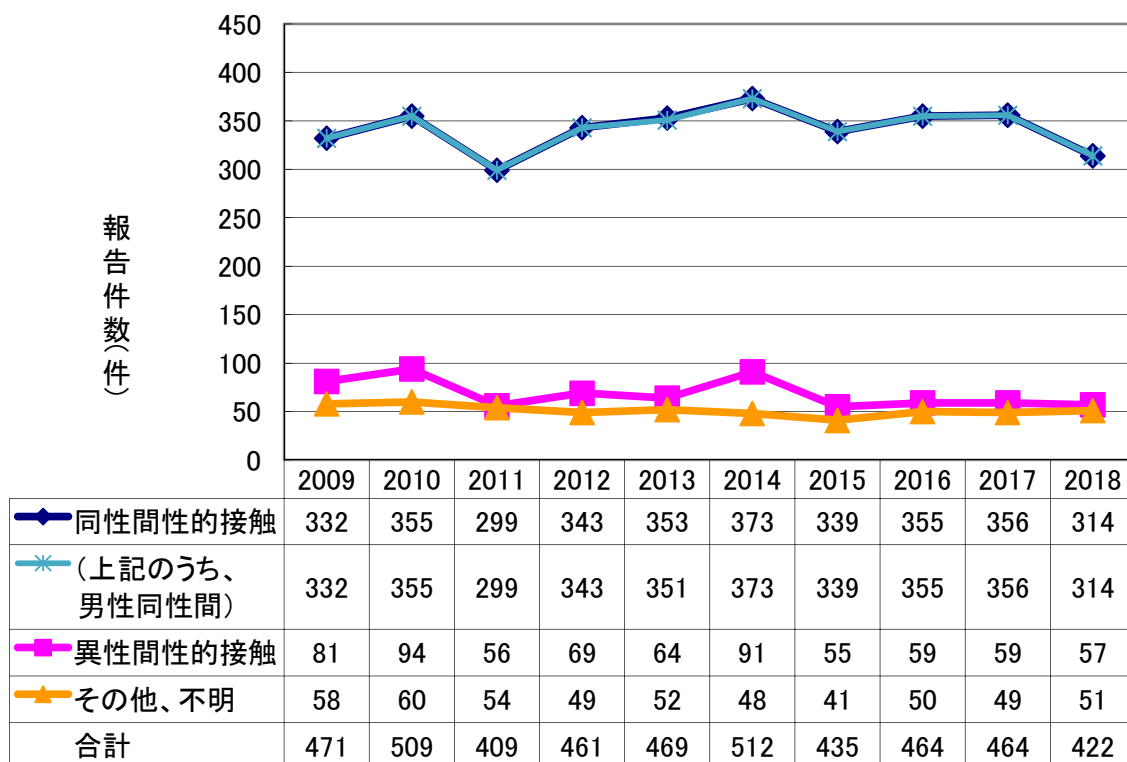


日本国籍男性の報告数は、前年に比べて17件減少した。  
外国籍男性の報告数は、前年に比べて21件減少した。  
日本国籍女性と外国籍女性の報告数は、近年ほぼ横ばいで推移している。

図-3  
HIV感染者及び  
AIDS患者合計の  
推定感染経路別  
報告数の推移  
(過去10年)

ひとくち  
メモ

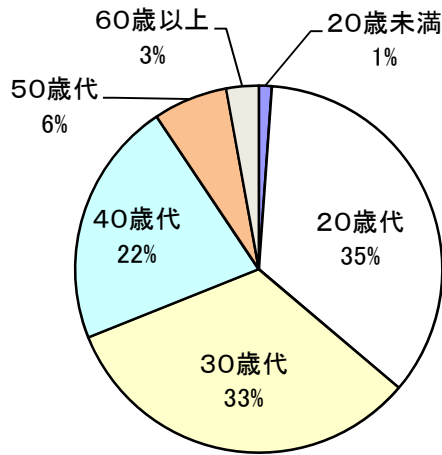
「その他、不明」に  
は、感染経路が不  
明または複数あっ  
たり母子感染や静  
注薬物使用の可能  
性のある場合など  
が含まれる。



同性間性的接触による報告数は、前年に比べて42件減少した。  
異性間性的接触による報告数は、前年に比べて2件減少した。

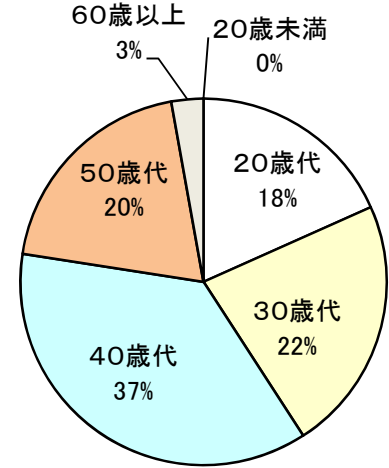
図-4  
HIV感染者及び  
AIDS患者の  
年齢別割合  
(2018年)

(1) HIV感染者



	HIV(件)
20歳未満	4
20歳代	123
30歳代	115
40歳代	76
50歳代	23
60歳以上	10
合計	351

(2) AIDS患者



	AIDS(件)
20歳未満	0
20歳代	13
30歳代	16
40歳代	26
50歳代	14
60歳以上	2
合計	71

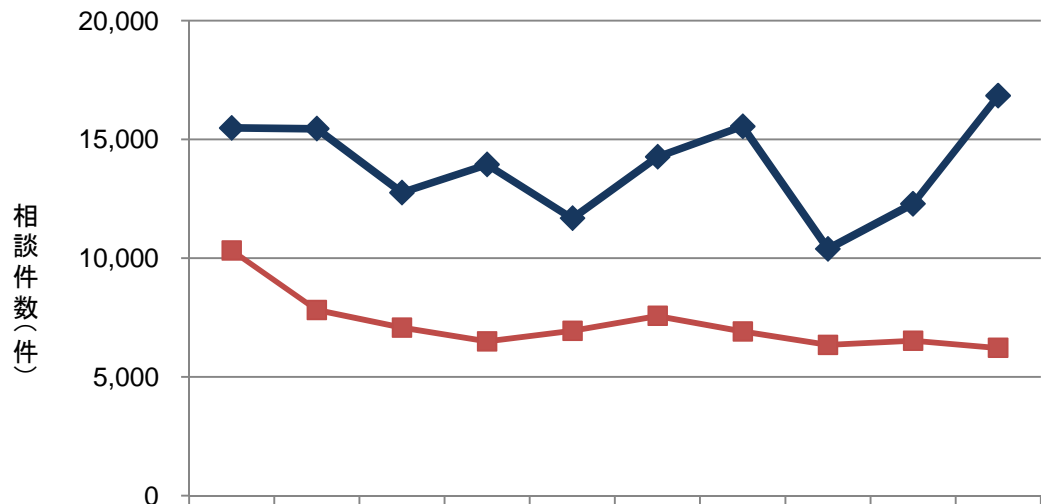
HIV感染者のうち20～30歳代が67.8%、AIDS患者では30～40歳代が59.2%であった。

## 2 相談・検査体制

図-5  
保健所等での  
電話相談件数  
の推移  
(過去10年)

ひとくち  
メモ

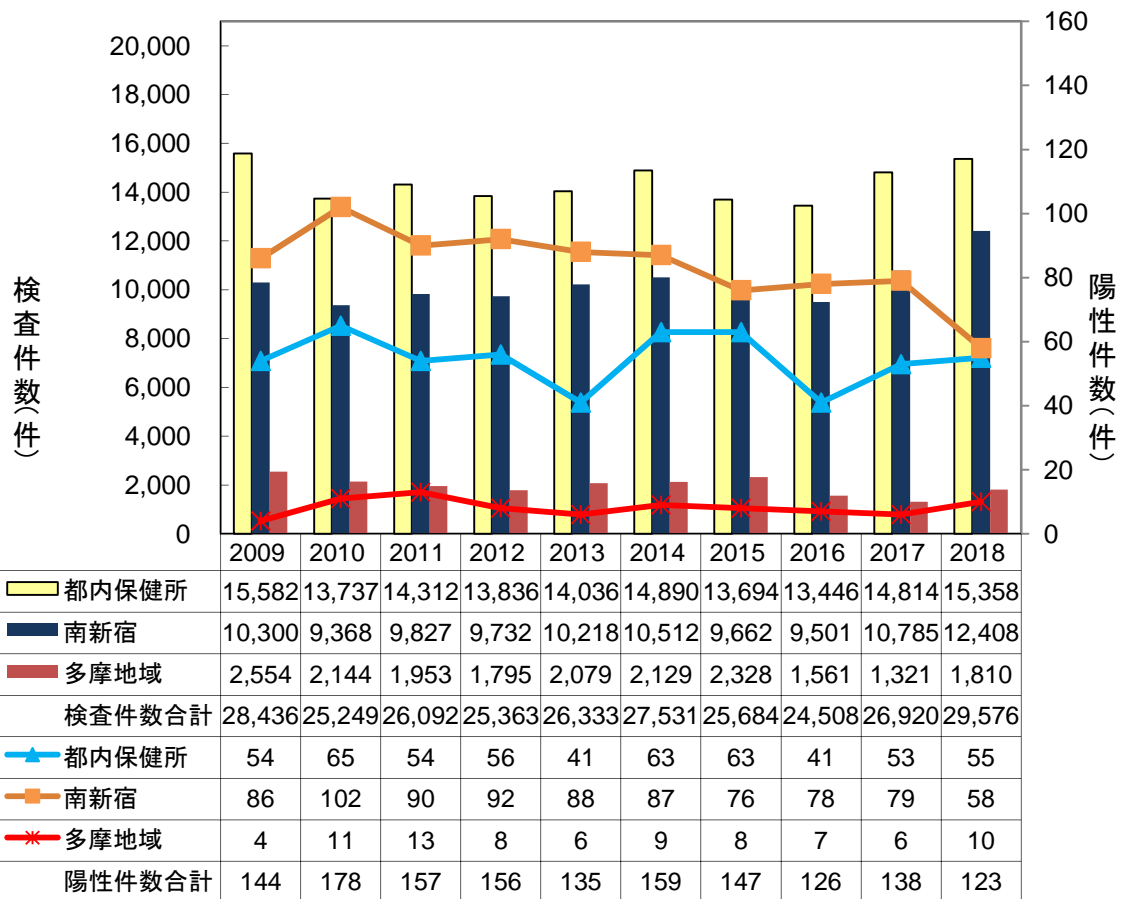
東京都HIV/エイズ  
電話相談：  
03-3292-9090  
平日：9時～21時  
土日祝：14時～17  
時 HIV/エイズに  
関しての感染不安  
や予防などの相談  
に応じている。



	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
東京都HIV/エイズ 電話相談	15,485	15,450	12,764	13,942	11,676	14,263	15,555	10,389	12,293	16,836
都内保健所	10,319	7,820	7,071	6,492	6,938	7,566	6,915	6,352	6,525	6,220
合計	25,804	23,270	19,835	20,434	18,614	21,829	22,470	16,741	18,818	23,056

2018年の電話相談件数は、前年よりも約23%増加した。  
東京都HIV/エイズ電話相談は約37%増加し、都内保健所は約5%減少した。

図-6  
保健所等での  
HIV検査件数及  
び陽性件数の  
推移  
(過去10年)



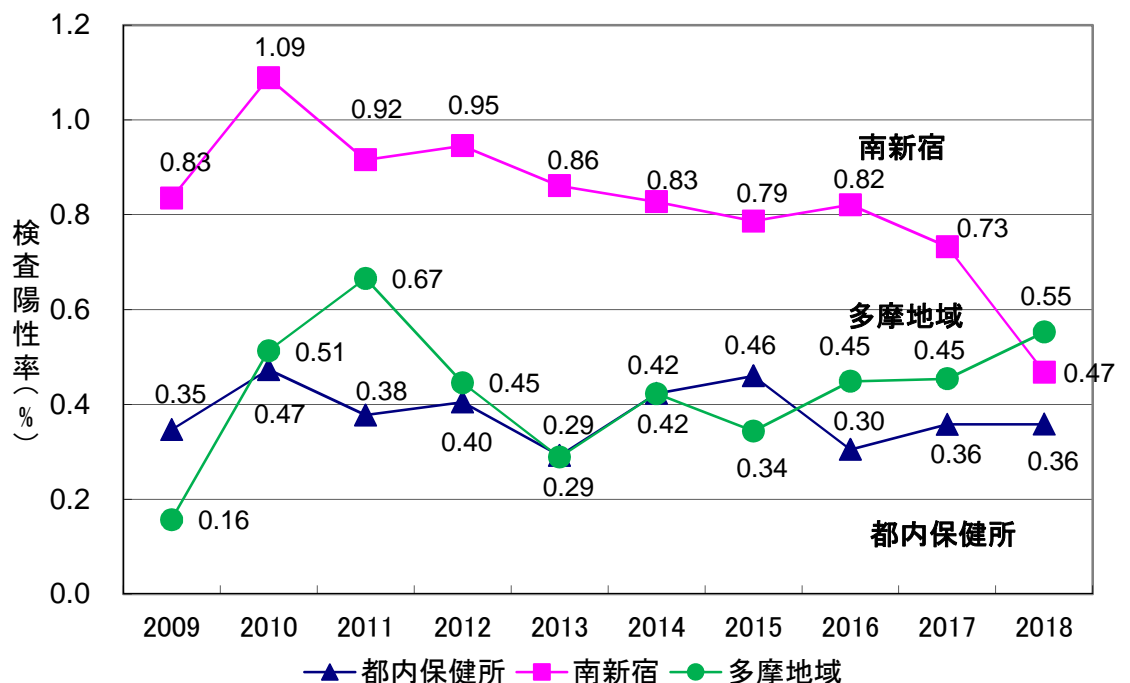
ひとくち  
XME

無料・匿名でHIV検査  
を行っている東京都  
の検査・相談室

○東京都南新宿  
検査・相談室:  
新宿駅南口徒歩3分  
平日夜間・土日

○東京都多摩地域  
検査・相談室:  
西国立駅徒歩9分  
土曜日

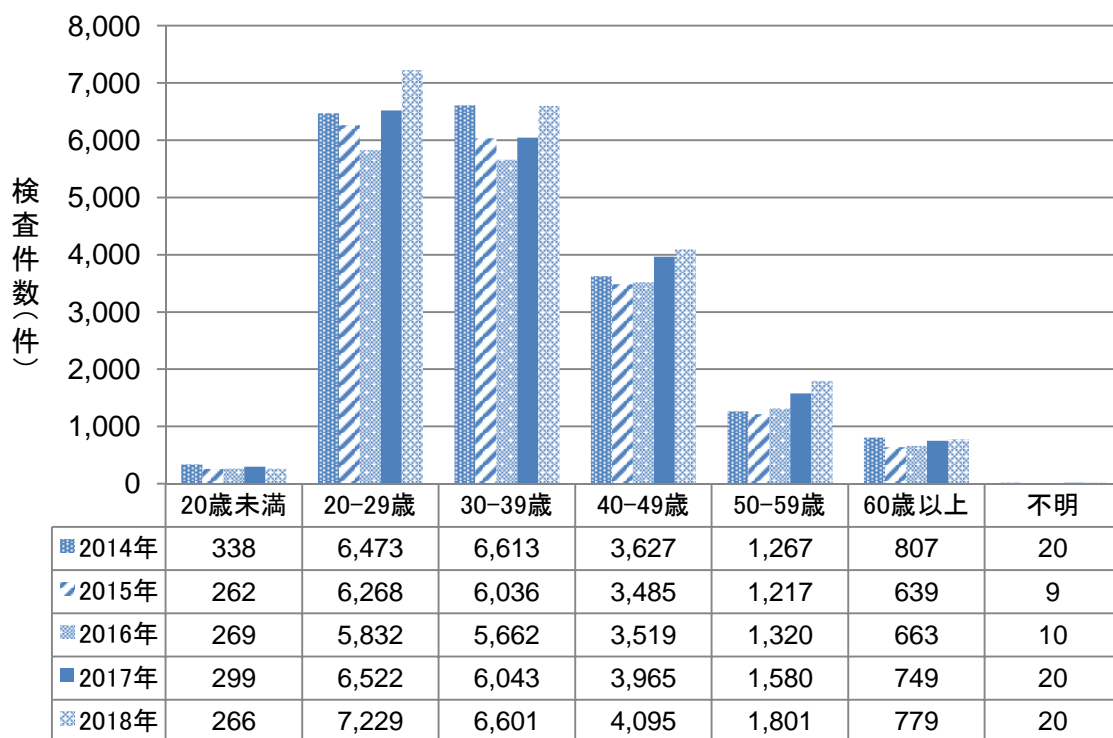
図-7  
保健所等での  
HIV検査陽性  
率の推移  
(過去10年)



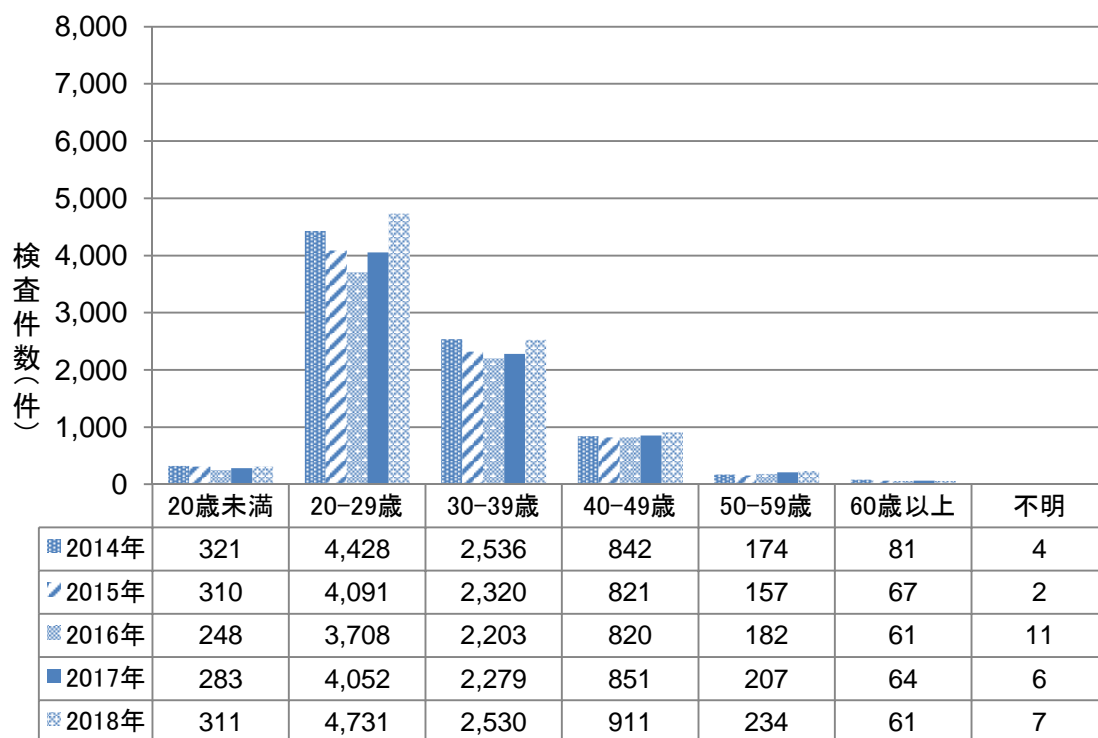
HIV検査件数は29,576件で、前年に比べて2,656件、率にして約10%増加した。  
検査件数を前年と比べると、都内保健所は544件、南新宿は1,623件、多摩地域は489  
件増加した。  
また、都内保健所の陽性件数は55件で陽性率は昨年と同様であったが、南新宿の陽  
性件数は58件で陽性率は大幅に減少した。一方、多摩地域の陽性件数は10件で陽性率  
は0.10ポイント上昇した。

図-8  
保健所等での  
性別・年齢別  
検査件数の  
推移  
(過去5年)

(1)男性



(2)女性



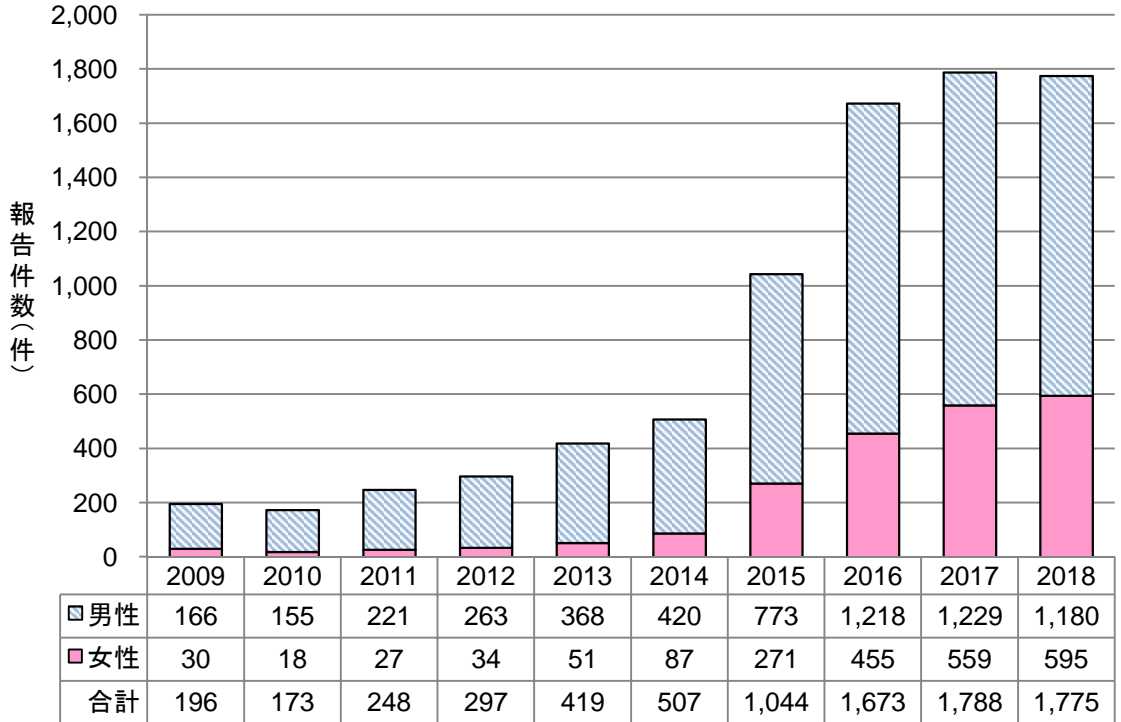
年代別の検査件数は、男性は20歳未満を除くすべての年代、女性は60歳以上を除くすべての年代で、前年と比べ増加した。  
男女ともに20歳代及び30歳代で顕著に増加した。

### 3 他の性感染症情報「東京都の梅毒の動向」

図-9  
梅毒の患者  
報告数の推移  
(過去10年)

**梅毒とは？**

梅毒トレポネーマによる感染症です。性行為で粘膜や皮膚の小さな傷から感染します。昔の病気と思われがちですが、近年患者数が増加しています。治療をしなければ、発疹やただれなどが出てきたり消えたりしている間に、病気が進行してしまいます。



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

患者報告数は1,775件で、前年と比べてほぼ同様であった。前年から男性は49件減少したが、女性は36件引き続き増加した。

図-10  
梅毒の推定感染  
経路別報告数の  
推移  
(過去10年)

**梅毒のポイント①**

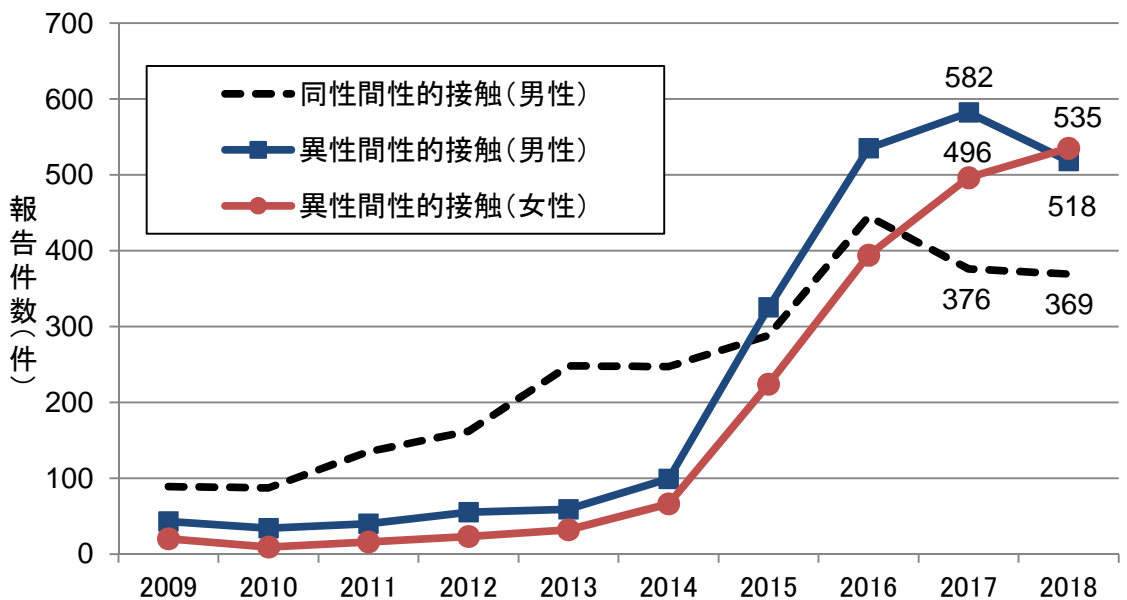
オーラルセックスでも感染します。

症状がなかったり、皮膚に症状がでて痛みやかゆみがないことがあります。

症状が自然と消え、治ったと思いつつも入ることもあります。

免疫ができないので、治療し、完治しても何度でも感染します。

症状がなくてもパートナーを感染させることもあります。



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

2014年までは、男性の同性間性的接触による患者報告数が多かったが、それ以降では、男女共に異性間性的接触による患者報告数が急増している。2018年は女性の異性間性的接触による患者報告数が男性の異性間性的接触による患者報告数を上回った。

図-11  
梅毒の性別・  
年齢別患者  
報告数の推移  
(過去5年)

梅毒の  
ポイント②

感染しているかどうかは検査を受け  
ないとわかりませ  
ん。

パートナーも梅毒  
検査を受けましょ  
う。

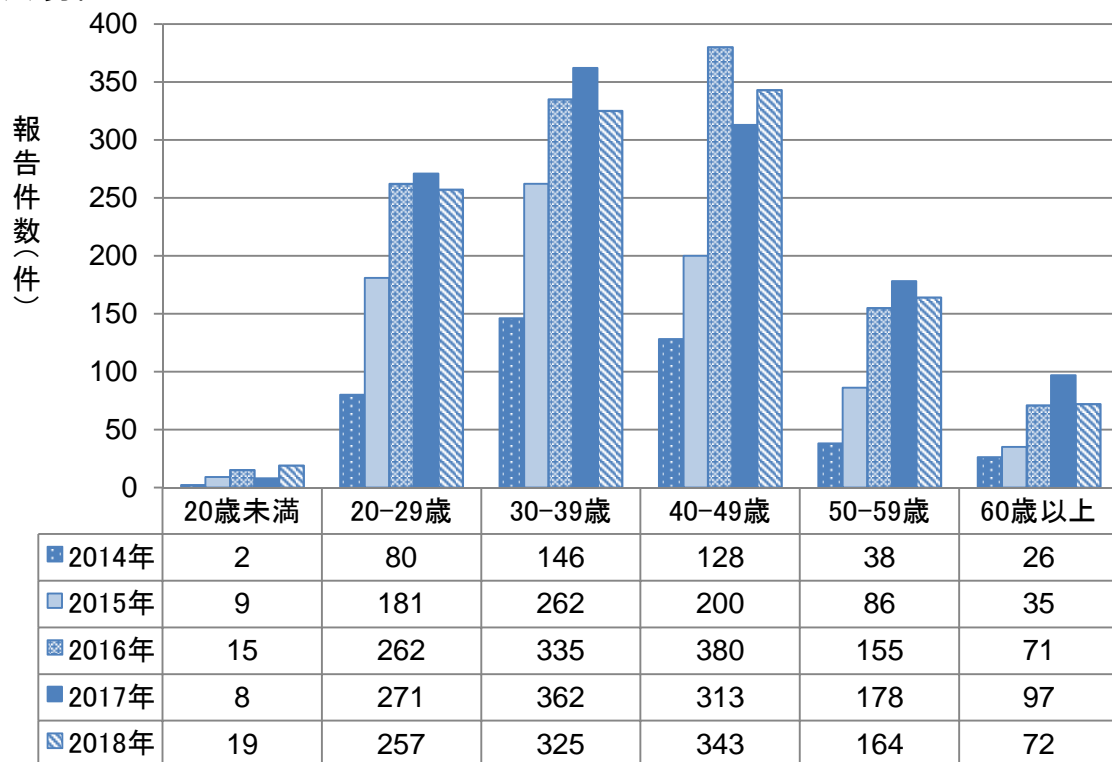
症状があるときは  
すぐに医療機関を  
受診しましょう。

予防には、コンド  
ームの適切な使用が  
有効です。

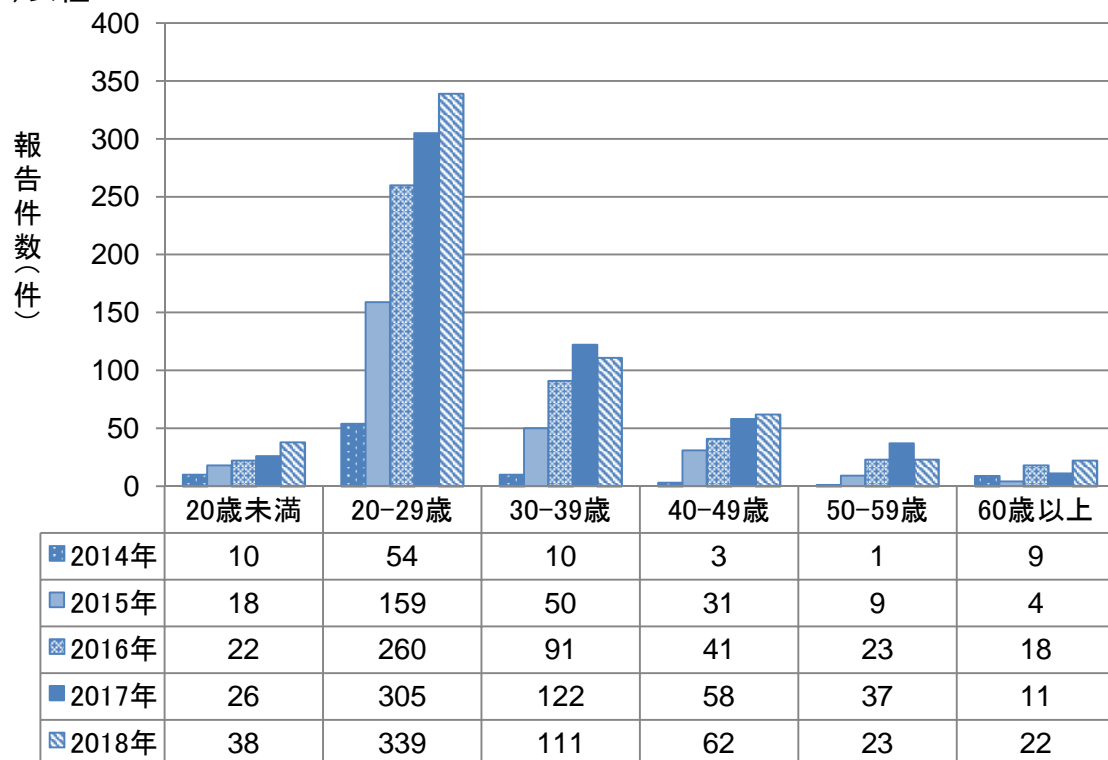
梅毒の  
ポイント③

女性が感染し治療  
しないしていると、妊  
娠した際に、お腹  
の赤ちゃんにも感  
染することがありま  
す。

(1) 男性



(2) 女性



—東京都感染症情報センターHP「梅毒の流行状況」—

男性は20～40歳代に多く、女性は20歳代で急増している。

